

【現状】 地域の現状・課題 (今の地域)

○学校が統合(2小学校, 1中学校→1小学校, 1中学校)され, 高台に移転し, 6年目が経過。
(R2年度～ コミュニティ・スクール制度がスタート)

○学校の統合, 移転により, 地域住民が子供の学んでいる姿を見ることが減少し, 地域住民と子供, 親世代との関わりが希薄化。

○特定の世代では, 小学校区単位での地域意識が強固。

【課題】

- 少子高齢化, 人口減少が進んでおり, 将来的に持続可能な地域とするには, 地域間の垣根を取り払うとともに, 世代間の交流を進めていく必要がある。
- それらを進めるには, コミュニティ・スクール制度を一つの手段として, 地域と学校がwin-winの関係となっていく必要がある。

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

地域で育った子供たち, 生活している人たちが, いつまでも暮らしていきたいと思える地域 (地域)

- 地域意識(小学校単位)を取り除き, 1つの地域として未来を考えていくことができる。
- 世代間で連帯し, 地域全体, 全世代で地域活動, 学校活動について考え, 進めていくことができる。

(人材)

- 郷土愛にあふれる人材を育成するとともに, 多種多様な地域人材を発掘する。

取組の概要

ポイント

- ①「忠海」の過去・現在・未来を考えながら, 楽しみながらできることを見つける
- ②忠海学園と地域のつながりを強化することで「地域が学校を元気にする」「学校が地域を元気にする」相乗効果
- ③住民(高齢者, 保護者世代)の力の掘り起こし

準備期

□ **コミュニティ・スクールについて知る**
地域住民等に向けたコミュニティ・スクールに関する情報を提供し, 制度の周知を図る。

□ **子育て支援講座, 児童生徒向けの講座の充実・強化**
学校との連携を強化する取り組みの一環として, 子育て支援, 児童生徒向けの講座を充実させ, 忠海学園に通う児童生徒と地域との繋がりを強くしていく。

□ **地域交流センターが学校と地域のハブに**
学校の困りごとを地域と一緒に解決していくために, 地域交流センターが学校と地域の橋渡し役を担う。

試行期

□ **“忠海”で地域と学校(児童生徒)が交流できる行事の開催**
地域と学校が交流できる行事を開催する。子どもたちが自分たちの生活する地域住民と関わることで, 郷土愛の醸成を図る。

実施期

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

交流の回数
(事業・講座数, 作品へのコメント数)

実施体制 (連携・協力団体等)

忠海学園

地区社協 自治会 女性会 老人会
PTA 子ども会

竹原市地域づくり課
竹原市教育委員会文化生涯学習課

運営財源・活動資金

地域交流センター事業費

発展・継続・関連

- ・学校から地域へのアプローチ(双方向の取組)
- ・高等学校, 企業, その他団体との連携の広がり

